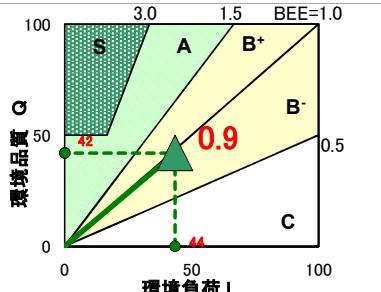
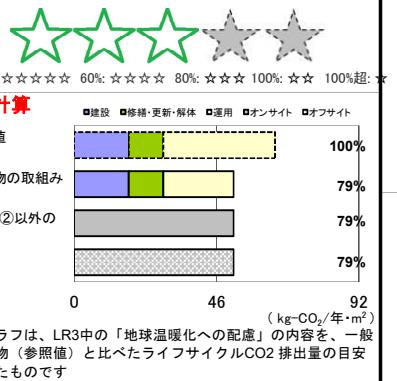
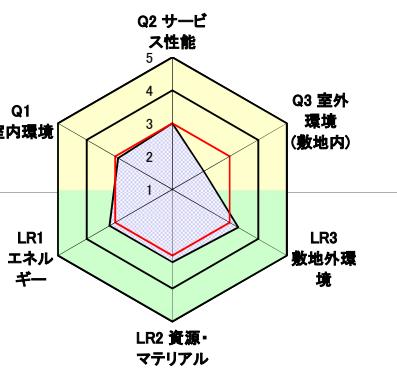
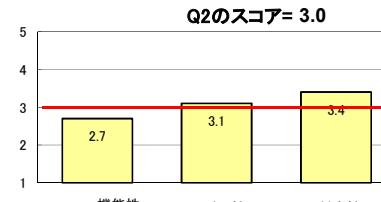
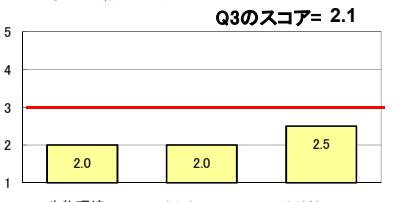
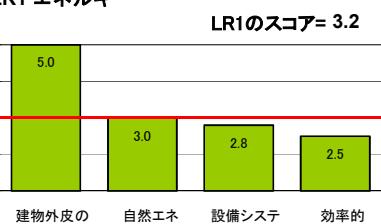
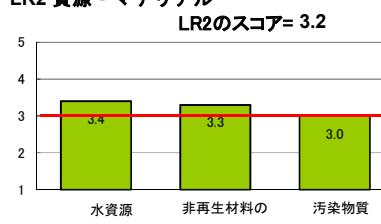
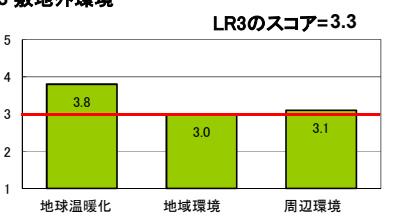


1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	福岡運輸株式会社 厚木物流センター	階数	地上2F
建設地	神奈川県厚木市船子字長ヶ町153~155,157	構造	S造
用途地域	準工業地域 法第22条区域	平均居住人員	20 人
地域区分	6地域	年間使用時間	3,000 時間/年(想定値)
建物用途	事務所,工場,	評価の段階	基本設計段階評価
竣工年	2027年1月 予定	評価の実施日	2025年5月30日
敷地面積	4,425 m ²	作成者	株式会社ロイ設計
建築面積	2,429 m ²	確認日	2025年6月2日
延床面積	2,718 m ²	確認者	株式会社ロイ設計

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)		2-2 ライフサイクルCO ₂ (温暖化影響チャート)		2-3 大項目の評価(レーダーチャート)																	
BEE = 0.9  S: ★★★★★ A: ★★★★ B+: ★★★ B: ★★ C: ★		  このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参考値)と比べたライフサイクルCO ₂ 排出量の目安で示したもので、kg-CO ₂ /年・m ² で示されています。																			
2-4 中項目の評価(バーチャート)																					
Q 環境品質 Q1 室内環境 Q1のスコア= 2.9 		Q2 サービス性能 Q2のスコア= 3.0 		Q のスコア= 2.6 Q3 室外環境 (敷地内) Q3のスコア= 2.1 																	
LR 環境負荷低減性 LR1 エネルギー LR1のスコア= 3.2 		LR2 資源・マテリアル LR2のスコア= 3.2 		LR のスコア= 3.2 LR3 敷地外環境 LR3のスコア= 3.3 																	
3 設計上の配慮事項 <table border="1"> <tr> <td colspan="2"> 整合 近隣への日影を配慮し、自動倉庫の高さをおさえた。 敷地内及び事務所屋上に緑地を設けた。 現状土地の土の切盛が極力少なくなるように配慮して計画した。 </td> <td colspan="2"> その他 0 </td> </tr> <tr> <td colspan="2"> Q1 室内環境 F ★★★☆☆建材を使用。 </td> <td colspan="2"> Q2 サービス性能 階高にゆとりをもたせ、建物自由度を高めた。 </td> <td colspan="2"> Q3 室外環境 (敷地内) 敷地内一部に緑地を設け、暑熱環境に配慮した。 </td> </tr> <tr> <td colspan="2"> LR1 エネルギー 外部に面する部分は断熱材を設置し、設備機器については高効率機器を選定した。 </td> <td colspan="2"> LR2 資源・マテリアル 節水機能がついた衛生器具を使用。リサイクル材を採用了。 </td> <td colspan="2"> LR3 敷地外環境 適切な数の駐車スペースを計画し、周辺の交通負荷軽減に配慮した。 </td> </tr> </table>						整合 近隣への日影を配慮し、自動倉庫の高さをおさえた。 敷地内及び事務所屋上に緑地を設けた。 現状土地の土の切盛が極力少なくなるように配慮して計画した。		その他 0		Q1 室内環境 F ★★★☆☆建材を使用。		Q2 サービス性能 階高にゆとりをもたせ、建物自由度を高めた。		Q3 室外環境 (敷地内) 敷地内一部に緑地を設け、暑熱環境に配慮した。		LR1 エネルギー 外部に面する部分は断熱材を設置し、設備機器については高効率機器を選定した。		LR2 資源・マテリアル 節水機能がついた衛生器具を使用。リサイクル材を採用了。		LR3 敷地外環境 適切な数の駐車スペースを計画し、周辺の交通負荷軽減に配慮した。	
整合 近隣への日影を配慮し、自動倉庫の高さをおさえた。 敷地内及び事務所屋上に緑地を設けた。 現状土地の土の切盛が極力少なくなるように配慮して計画した。		その他 0																			
Q1 室内環境 F ★★★☆☆建材を使用。		Q2 サービス性能 階高にゆとりをもたせ、建物自由度を高めた。		Q3 室外環境 (敷地内) 敷地内一部に緑地を設け、暑熱環境に配慮した。																	
LR1 エネルギー 外部に面する部分は断熱材を設置し、設備機器については高効率機器を選定した。		LR2 資源・マテリアル 節水機能がついた衛生器具を使用。リサイクル材を採用了。		LR3 敷地外環境 適切な数の駐車スペースを計画し、周辺の交通負荷軽減に配慮した。																	

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される